

開かずの踏切

わが家のベランダから、東の方に JR 京都線の電車が見える。西の方には、地下鉄の御堂筋線の電車がすこしだけ見える。東三国・新大阪間の地上を走る地下鉄だ。そして空には大阪空港に向かう飛行機。3種類の乗り物が同時に眺められるとは。

写真上は自宅から歩いて7分ほどの JR 東淀川駅。古くて小さな駅舎だ。近所の散髪屋の主人によると、新大阪駅ができたとき廃止の動きがあったが、住民が反対して存続したという。新大阪から700メートルしか離れておらず、ホームの端から新大阪駅が見える。線路の向こう側は東淀川区である。



線路沿いに桜並木が続き、線路下に狭い地下道がある。「けた下制限高 1.5M」とある。地下道に入るときには、腰をかがめなくてはならない。この地下道を通り、自転車で淡路商店街まで買い物に行く。最初は入り組んだ道に迷ったものだ。正月3日の夜、京都からの帰りに、阪急の淡路駅から歩いて地下道を通って帰宅した。なんだか物騒な感じであり、寒風が身にしみた。



写真下3枚は駅から新大阪寄りの南宮原踏切。ここは「開かずの踏切」として有名だ。「開かずの踏切サイト」によると、南宮原踏切は遮断時間が JR 西日本管内では1,2番目に長い。



1時間当たり57分間も「開かず」の時間があるという。

JR 京都線を頻繁に走る普通や快速電車、特急電車、それに長く続く貨物列車が行き交う。たまたま昼間に踏切を自転車で渡ろうとしたが、10分ほど待たされた。名古屋時代には踏切と縁がなかったが、かつての大学院時代には踏切と縁があった。大阪市立大がある阪和線の「杉本町駅」近く、そして「我孫子町駅」前で過ごしていた頃にお世話になった。

この南宮原踏切と吹田寄りの北宮原第一・第二踏切が廃止になるという。東淀川駅が橋上駅舎に改築されるので、新こせん橋の使用開始にあわせて廃止という。これにより、待ち時間は解消されるが、踏切がなくなるのも、なんだか寂しい思いもする。踏切が開くのをじっと待ちながら、行き交う列車を眺めるのも、懐かしい思い出として残しておきたい。今日から4月。新年度の「扉」を開いていこう。



(2018年4月1日)